

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月 11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4072900287		
法人名	有限会社 風のふく丘		
事業所名	グループホーム 風のふく丘		
所在地	福岡県小郡市干潟2061番地2 〒 838-0112 (電話) 0942-72-1830		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年11月5日	評定確定日	平成20年12月2日

## 【情報提供票より】(平成 20年 10月 10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 10月 10日						
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人				
職員数	16人	常勤	2人	非常勤	14人	常勤換算	7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての～	1階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000～25,000 円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有( 90,000 円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有( 円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,000 円程度	

### (4) 利用者の概要(10月10日現在)

登録人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	名		
要介護3	名	要介護4	5名		
要介護5	1名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 88歳	最低	84歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸山病院、筑紫歯科クリニック
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

今までの時間から時間に追われるケアに疑問を抱き、心のおもむくままに、心身ともに自由に生活ができるような事業所を目指して開設されたホームである。代表が抱く老後の生活を具体化し、自宅を改修して開設した事業所であり、自然と調和しながらゆっくりとのどかな時間が流れている。職員は常に利用者への尊敬の念を持って利用者の言葉を傾聴する姿勢があり、不明瞭な発語であっても利用者は臆することなく自分の意向を発している。利用者との独特のコミュニケーションが確立されており、日常のかかわりを通じて利用者の意向の把握と実践が行われている。利用者の笑顔から「自分の家ではないが、良い人生であったという思いで利用者に過ごして欲しい」という代表の思いが職員全体へ浸透し、事業所の理念となって実践されていることが伺える。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の外部評価結果を受けて、サービス計画内容及び職員間での共有方法としての記録内容の充実を図るなど、質の向上に向けた具体的な取組みがある。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の外部評価を受けるにあたり、職員全員が自己評価内容を記入し代表が取りまとめるなど、職員全員がかかわっての取組みがある。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 行政担当職員、区長、民生委員、老人クラブ会長、家族代表等の参加のもと、2か月に1度の開催がある。会議では、事業所からの報告や説明のみならず、様々な内容についての質疑応答がなされるなど、活発な意見交換の場となっている。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 家族面会時の声かけと説明、その都度の電話連絡、家族懇談会時の説明などが行われている。家族と利用者との関係を重視した支援が行われており、相談や要望等は直接言われることが多く、毎朝のミニカンファレンスや月1度のカンファレンス時に検討するなどの取組みがある。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 校区夏祭りへの模擬店の出店と見学、地域行事を通じての子供達との交流などが行われている。また、地域の清掃活動や親睦会への参加、近隣小学校児童の施設見学の受入れや中学生の職場体験の受入れ、専門学校の実習生の受入れなど、地域との連携への取組みがある。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	代表者の思いを汲み取り、職員全員で検討し て作成した理念である。事業所の理念とは別に 地域密着型サービスとしての理念を掲げてお り、日常の挨拶から広がる地域との繋がりを意 識した取組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	理念の頭文字は事業所名となっており、常に 理念を意識しながらの支援が行われている。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	校区夏祭りへの模擬店の出店と見学、地域行 事を通じての子供達との交流などが行われてい る。また、地域の清掃活動や親睦会への参加、 近隣小学校児童の施設見学の受入れや中学生の 職場体験の受入れなど、地域との連携への取組 みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の外部評価結果を受けて、サービス計画 内容及び記録内容を充実させるなど、質の向上 に向けた具体的な取組みがある。今回の外部評 価を受けるにあたり、職員全員が自己評価内容 を記入し代表が取りまとめるなど、職員全員が かかわっての取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当職員、区長、民生委員、老人クラブ会長、家族代表等の参加のもと、2カ月に1度の開催がある。会議では、事業所からの報告や説明のみならず、様々な内容についての質疑応答がなされるなど、活発な意見交換の場となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への行政担当職員の参加がある。運営推進会議を通じての質疑応答やその都度の相談と助言をもらうなど、行政との連携に努めている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地区介護保険研修会やグループホーム協議会、行政等で行われる勉強会への参加を通じて、職員の理解を図るように努めている。また、家族に対しては、運営推進会議や入居時に制度に関する説明を行うなどの取り組みがある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族面会時の声かけと説明、その都度の電話連絡、家族懇談会時の説明などが行われている。家族と利用者との関係を重視した支援が行われており、個々の家族の状況に合わせた報告と相談対応等の取り組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の声かけと説明、その都度の電話連絡、家族懇談会時の説明などを通じて、家族の意見の表出に努めている。相談や要望等は直接言われることが多く、毎朝のミニカンファレンスや月1度のカンファレンス時に検討するなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	突発的な事態にも利用者に対して安定した支援が行えるように、系列事業所間での異動の実施がある。大々的なホーム行事には、系列事業所の職員の協力を得るなど、利用者との関係を断ち切らないような配慮がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集について、何らの制限は設けていない。本人のやる気や気持ちを重視しての採用である。職員に対して、資格取得の支援を行うなどの体制がある。個々の職員の家庭環境や職員のプライベートを考慮した勤務体制の実施など、働きやすい職場環境への取り組みがある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>グループホーム協議会等での資料を利用して、朝礼時のミニカンファレンスや月に1度のカンファレンス時に協議するなどの取り組みがある。</p>		
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>様々な研修の情報を提示して参加希望を募ったり、職員の適性を見極めて振り分けるなど、外部研修参加への取り組みがある。研修参加後はカンファレンス時に報告を行うなど、知識や情報の共有に努めている。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区介護保険研修会やグループホーム協議会、行政等で行われる勉強会への参加を通じて、他の事業所との交流・連携への取り組みがある。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の家族共々の体験利用を通じて、馴染みの関係を構築するための取り組みがある。預けっぱなしにしないよう家族へ説明するなど、家族との関係性を重視した支援が行われている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干やラッキョウなどの常備食の作り方、その地方の方言、利用者の表現方法など、日常のかかわりの中で学ぶ取り組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者への尊敬の念を持って利用者の言葉を傾聴し、利用者の発した言葉を直ぐ理解し対応する様子から、日常の中での利用者の意向の把握と実践が伺えた。		日常のかかわりを通じて把握した利用者の思いや意向等を、アセスメント様式等に記入し、介護計画内容に反映させた介護計画書の作成と職員間での更なる情報共有への取り組みに期待します。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族面会時やその都度の電話連絡等により家族の意向を、日常のかかわりを通じて利用者の思い等を把握し、カンファレンスで職員と協議しての介護計画の作成がある。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	3ヶ月毎及び状態の変化が見られた場合に介 護計画内容の見直しが行われている。月に1度 のカンファレンスにおいて、全利用者の状況の 確認と情報交換が行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	地区の親睦会で認知症についての相談や介護 相談を受けたり、福祉用具業者の紹介、利用者 の今までのかかりつけ医への受診対応など、そ の都度の対応がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	利用者の今までのかかりつけ医への受診対応 である。受診は、ホーム職員による対応であ り、かかりつけ医より専門病院への紹介等が行 われるなど、連携が図られている。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向や本人の「何をしたい」という希 望に基づいて、その都度、事業所内で協議しな がらの対応がある。基本は「経口摂取ができな くなるまで」と決めている。本人・家族の意向 の確認は行っているが、様式等に記入するま では至っていない。		日常のかかわりを通じて把握した本人・家 族の思いや意向等の確認について、統一した 様式等を用いての記録化を図られるなどの取 組みに期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	耳元での声かけ、使用前後の尿取りパット類 の取り扱い、利用者の発した言葉を直ぐ理解し 聞き返すことなく対応するなど、常に、利用者 のプライバシーを意識したケアが見受けられ た。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	起床時間、朝食時間、消灯時間等、まちまち であり、居室で食事をとる利用者に対しては居 室に配膳するなど、利用者一人ひとりのペ ースや希望を尊重した対応がある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	メニューは管理栄養士が立て、ホームで調理 している。食事の下ごしらえ、味付け、常備菜 の作成など、利用者一人ひとりが出来ることを 生かした取組みがある。食事を作る際の音や匂 いなど、五感へ働きかけ、食事が楽しみとなる ような工夫がある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本は1週間に3日の入浴実施である。利用者 の希望や状況により柔軟な対応がある。入浴時 間や入浴にかかる時間は自由であり、入浴剤を 使用するなど、入浴を楽しめるような支援があ る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	食事の下ごしらえ、豆の殻剥き、洗濯物た たみ、金柑の砂糖漬けや梅酒造り、梅干しづけな どの常備菜の作成など、利用者の出来ることを 把握しての支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日々の散歩や草取り、花見、地区の夏祭り、 敬老会への参加、年に1度の家族も含めての事 業所総出のドライブなど、外に出る機会を見つ けての柔軟な対応がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中はホーム玄関、縁側等の出入り口は開錠 されている。利用者の状態をきめ細かく観察 し、利用者の身振りや素振りから外出傾向を把 握し、散歩に出かけるなどの対応がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練の実施がある。運営推進 会議時や地区の消防団に声かけを行うなど、地 域の協力を得るための取り組みがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	メニューは管理栄養士が立てており、食事摂 取量のチェックを通じて、栄養バランスの把握 がある。水分不足にならない為の水分摂取への 声かけ支援、必要な利用者に対しての水分摂取 量の把握、利用者の状況にあわせた食事形態の 提供等の支援がある。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型の事業所であり、縁側に差し込む 日の光は優しく、庭先には季節の花々が咲いて いるなど、ゆっくりとどかな時間が流れてい る。玄関先、テーブルの上、トイレの中や手洗 い場などに庭先の草花がさりげなく飾られてお り、落ち着いた空間であった。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、箆笥や椅子、写真やぬいぐ るみなど、使い慣れたものや愛着のあるものが 持ち込まれており、安心して過ごすことができ る居室づくりへの配慮が見られた。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号